

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～知識・技能の定着，思考・判断・表現する活動をもとに～

三島村立三島小中学校

1 研究のねらい

本校は、島唯一の学校で、一学年あたりの児童・生徒数が少ない複式学級・極小規模校であり、平成30年度の在籍数は、児童数17名、生徒数3名の小中併設校である。そのため、教師の目が一人一人に行き届き、きめ細かな指導を行うことができる。一方で、小規模校ゆえに多くの人とコミュニケーションを図る場面が少なく、思っていることや考えていることを言葉でうまく表現することを苦手としている児童生徒もいる。また、昨年度までの本校の研究主題「表現力（伝える力と聞く力）を育む指導の工夫～知識・技能の定着，思考・判断する活動をもとに～」においては、意思表示の力や伝えようとする力の向上は認められたが、わかりやすく伝えるという表現力には課題が見られた。また、学力の個人差もあり、基礎的・基本的な知識・技能の定着だけでなく、思考・判断・表現の力を身に付けることも課題であると考えた。

そこで、本研究主題を設定し、児童生徒が自ら主体的に学習に取り組むことができるような授業のあり方について研究を進めていくこととした。

2 研究の概要

本研究では、極小規模校の強みを生かした実践を行った。多人数ではできないことも、少人数では可能なことがあり、教育的効果もあげられるものがある。指導過程の工夫や教育機器の活用の仕方、個に応じた教材研究の工夫などである。同じような環境の学校で気軽に取り入れることができるような実践を検証した。

3 研究の内容

- (1) 導入における魅力ある学習課題提示の工夫
- (2) 一人学びの充実と対話活動の工夫
- (3) TV会議システムを活用した指導の工夫

回	月	日	内 容	担 当	内 容(前年度の実施内容を含む)
1	4	11	本年度研修の概要、指導案形式について	研修係、教頭	研修の方向性、鹿大校舎「プロジェクタ」について
4	4	21	ICT機器についての確認	情報教育	ICT機器、TV会議システムなど
5	6	12	指導案検討	研修係、授業者	小学1・2年算数、大藪先生
6	6	18	研究授業①(w-s型授業研究)	研修係	小学1・2年算数、大藪先生
12	12	18	指導案検討	研修係、授業者	中学1年外国語、松元先生
14	1	15	公開指導案検討1	研修係、授業者	小学5・6年算数、園田先生
15	1	19	研究授業②(w-s型授業研究)	研修係、授業者	中学1年外国語、松元先生
18	1	5	公開指導案検討2	研修係、授業者	地区公開授業に向けて、園田先生
19	1	16	公開に向けての役割確認、シミュレーション	研修係	TV会議システム準備、配置、役割
20	1	19	地区公開授業当日	研修係	TV会議システムを活用した授業研究

【年間研修計画抜粋】

4 研究の実際

実践事例1 小学5・6年生複式学級における算数科の授業実践

- (1) 導入における魅力ある学習課題提示の工夫

タブレットに事前に教師による短い劇を録画しておき、導入場面で活用した。児童にとって身近な教師が課題を抱えている場면을提示することで、主体的に課題に取り組む姿が見られた。また、間接指導時における手立てとなるので、指導過程において「ずらし」をすることなく、教師は他方の学年において導入の指導をすることができた。その結果、指導過程における展開場面がほぼ同時に進行することができ、自力解決の際に、机間指導のタイミングをとることができた。



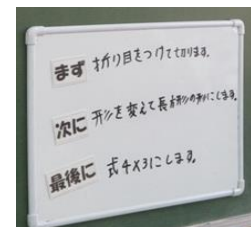
【タブレットの活用】

- (2) 一人学びの充実と対話活動の工夫

自力解決の時間を確保した上で、自分の考えを形成することができるよう、個々に応じたヒントカードを準備した。また、1人学級の授業では、どうしても多様な考え方にふれることが難しい現状にある。そこで、転校した友達の顔写真を用いて友達の考えカードを作成した。顔写真に吹き出しを添え、「ぼくは〇〇の考えを使ったよ。」と口語体で表現することでそこにはいない友達だが、手にした児童は、より臨場感と必要感をもって課題に取り組む姿が見られた。さらに、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができた。



【友達の考えカードを見て考える様子】



【思考語彙を用いたホワイトボード】

また、対話的な学びを促進する手立てとして、ホワイトボードを活用した。ホワイトボードには「まず」「つぎに」「最後に」という思考語彙のプレートを磁石で貼り付けておき、発表の際にその言葉を用いて発表するようにした。児童がホワイトボードを使って発表をする際に、教師はもう一人の聞き手側に対して「今、〇〇さんはこう言ったけど、□□さんはどう思う？」とホワイトボードを用い、教師を介して児童が対話できるような発問を行った。そうすることで、発表する児童はもちろんのこと、聞き手の児童も相手意識をもって聞くことができ、充実した対話活動を行うことができた。



【発表の様子】

さらに、授業を組み立てるに当たって、教材研究は不可欠であるが、その際に、児童生徒が学びの過程でどのような姿になるのかを想定しておくにより指導がしやすい。そこで、単元・本時の目標を基に評価規準を設定し、どのような表現・記述が児童生徒から出されるのかを想定した「評価資料」を作成した。少人数ならではのよさを生かし、個々の想定される姿をあらかじめ設定しておき、児童生徒一人一人がより深い学びをすることができるよう、手立ての工夫についても講じることができた。

第5学年算数科「図形の面積」	第6学年「比例と反比例」における評価資料
内容 数量と測定(1) 図形の面積	内容 D 数量関係(2) 比例
単元の目標 いろいろな図形の面積を各種定形、等積変形によって計算の図形に帰着させて考えたり、自分の考えを具像物や言葉、数、式、図を用いて考え、説明したりすることができる。	単元の目標 比例や反比例の関数について理解するとともに、二つの数量関係を式、表、グラフに表し、特徴を調べることができる。また、身の回りから比例や反比例の関係にある二つの数量を見つけようとしたり、その関係を用いて問題を解決したりすることができる。
本時の目標(4/14) 三角形の面積を学ぶ過程で、等積変形や各種定形など計算を方法と結びつけて長方形や平行四辺形に帰着させて考えることができる。	本時の目標(4/14) 表に表された比例関係を考察する活動を通して、比例の性質について理解することができる。
表現(記述)例 ○ 同じ面積の長方形に変える。 ます、三角形のとび出ている部分(DFと和)を移ります。次にそれを上に動かすと、長方形になります。 ○ 2倍の面積の長方形に変える。 ます、三角形AFBを上に乗っていくと三角形ADHになります。次に三角形AFBを上に乗っていくと三角形ADHになります。すると、長方形ADHGができます。最後にその長方形の面積を半分にするると三角形の面積になります。 ○ 同じ面積の平行四辺形に変える。 ます、Eで移ります。次にEに移動すると長方形になります。	表現(記述)例 長さ \times 幅 長さ $\sqrt{2}$ 1 2 3 4 5 6 幅 $\sqrt{2}$ 20 40 60 80 100 120 ○ 長さが長くなれば、幅も狭くなる。 ○ 長さが2倍になったら、幅も2倍になる。

【評価資料】

実践事例2 中学1年生における遠隔操作によるALTとの外国語科の授業実践

(3) TV会議システムを活用した指導の工夫

少人数学級でも、児童生徒が主体的・対話的な学びを実現することができるよう、テレビ会議システムを活用した授業実践に取り組んだ。ALTを相手に、好きなものについてのクイズを通して発表・紹介する活動を行った。1人学級のため、日頃の授業では、教師と1対1のコミュニケーション場面となっているが、ICT機器を活用することで、日頃とは異なる相手とのコミュニケーション場面の設定や生徒・教師・ALTとの3人でのコミュニケーション場面の設定をすることができた。



【TV会議システムを活用した授業の様子】

5 研究のまとめ

(1) 成果

- タブレットでの問題提示による導入の工夫を行うことで、児童生徒が興味・関心をもって授業に取り組むことができた。
- 自己の考えを広げ深めるためのヒントカードや友達の考えカードを取り入れることは、少人数学級の指導において見方・考え方を充実させる上で効果的であった。また、ICT機器の活用もより多くの考えに触れたり、他者と共に学び合う姿勢を育んだりすることにつながった。
- きめ細かな指導を重視する手立てとして「評価資料」を作成したことで、目指すべき児童生徒の姿を明確にし、指導に生かすことができた。

(2) 課題

- 対話的な学びを促進させる手立てとしてのホワイトボードの活用の仕方については、他者に伝えることを目的として整理して表現することができるよう、発達段階に応じて系統的に指導していく必要がある。

6 今後の取組

義務教育学校設立に向けて、小・中学部で連携を図り系統的な指導ができるよう、共通実践事項に取り組みたい。